小松じんぶん通信

第3号　令和2年12月　発行
石川県立小松高等学校　NSH担当

Jゼミのプレ発表会が行われました！

12月8日（火）

●8月の中間発表会から、さらに深まった研究を発表しました！質疑応答にも力が入ります！

今回は密を避けるため、3会場に分散して実施しました。新人大会に期末考査など忙しい時期が続く中、班員の集中力と協力で準備を重ね、本番を迎えました。各班、7分間の発表と3分間の質疑応答を行い、先生方から審査を受けました。審査の結果、どの教科グループでも僅差で、B班（地歴）、E班（国語）、G班（英語）が最優秀に選ばれました。また、今年度は県のNSH合同発表会がオンライン開催となり、すべての班が発表動画を掲載する形で参加します。詳細が決定次第、お知らせいたします。

A班　複雑化するいじめへの対応

いじめが原因の生徒間トラブル、刑事事件等が報道で取り上げられる現代において、これから増える可能性があるいじめのあり方を予測し、それをもとにした新たないじめ対策について研究しています。私たちは、その中でも実態の把握が難しい「ネットいじめ」対策に着眼した研究をおこなっています。

B班　彼らはなぜ迫害されたのか

世界中に迫害、差別されている民族がいることを知り、その迫害をなくすための解決策を考えています。現段階では迫害の内容をまだ一般化できていませんが、「土地」「資源」「労働力」「金銭」「政治的主導権」「一体感」等を求めて迫害が実行されたと考えており、今後はさらに深い研究をおこないます。

C班　QOLの向上に向けてのテレワークの提案

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、テレワークが導入され始めました。テレワークが一般化された場合、労働者の生活の質（QOL）が向上するかどうかについての研究をおこなっています。導入の効果を実感する一方、環境が整っていないことに伴うストレス増加が問題であることが分かっています。

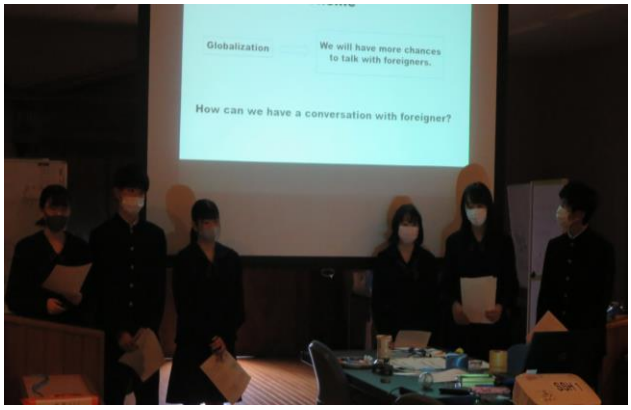
D班　平安時代の女性の死生観

亡することがあります。その背景に迫るため、平安時代に的を絞り、作品内に描かれる平安時代の女性の死生観についての研究をおこなっています。死は生の象徴でもあると考えられるため、生への執着と死の悲しみについて、さらに考察を深めます。

E班　ー奇才　宮沢賢治ー

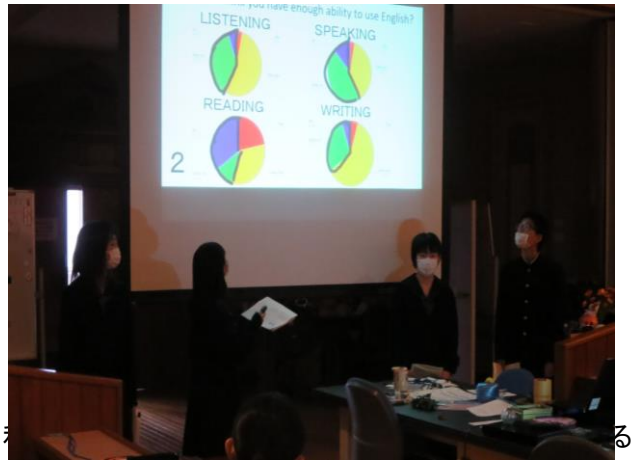
宮沢賢治の作品には、奇妙なオノマトペ表現がよく見られます。私たちは賢治がなぜそのようなオノマトペを生み出したかを明らかにするため、賢治の作品や宗教観についての考察をおこなっています。現在、賢治が幼少期から自然を身近に感じていたことが1つの理由ではないかという観点で研究を進めています。

F班　日米間の言語的コミュニケーションの違い



近年外国人と話す機会は増えていますが、日本人は実際にうまく会話ができません。この問題について研究をすることで、外国人との円滑なコミュニケーションを図るための解決策を考えています。アンケート調査の結果、「自己主張の違い」「結論の前後性」「表現の仕方」等において、日米間の差が明らかになっています。

G班　小松高校生のスピーキング力UPのためにできること



るにもかかわらず、英語を話せない人が多いと感じたため、その解決策を研究しています。現在、GTECのデータやアンケート調査の結果から、小松高校生自身がスピーキング力不足を実感していること、スピーキング力の向上が英語力向上に繋がることが分かっています。

H班　世界に伝わる私たちの英語

他言語を母国語同様に話すことは難しく、リーディングはできてもスピーキングはできないと感じる人は少なくないはずです。そこで、多言語で円滑にコミュニケーションをとる上で何が大切かを研究しています。県内ALTへのアンケート調査の結果、子音の発音、英語独特のリズム（抑揚）が大切であることが分かっています。

どの班も、それぞれの視点から鋭く切り込んでいますね。最終発表会が楽しみです！

K-JOB Seminar が実施されました

12月15日(火)

●金沢大学で研究中の留学生の皆さんが、人文科学コースの２年生と交流しました

12月15日(火)5～7限目に、人文科学コース2年生対象の「K-JOB Seminar」を開催しました。「K-JOB」には、Komatsu高校の生徒が、いつか国境を越えて(Jump Over the Border)活躍するため、国境を越えて学びにやってきた各国の先輩方と語り合い、国際的な視野を広げ、コミュニケーションスキルを向上するという意味を込めています。金沢大学の留学生13名に参加していただき、文化交流や課題研究に関する意見交換、また将来の夢について英語でたっぷりと語り合うひと時になりました。

当日の流れ

○開講式

中川校長先生によるスピーチの後、２１Ｈ室長の髙田元気さんが歓迎の挨拶を英語でおこないました。各国出身の１３名の留学生の皆さんが一堂に会する様子は壮観でした。

○Ice-breaking（文化交流）

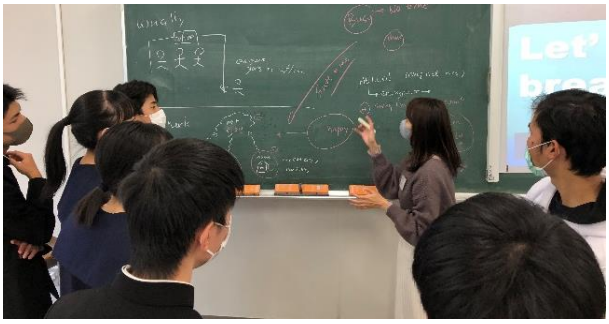
視聴覚室と、多目的講義室２部屋の３会場に分かれました。高校生１０名に対して３名～４名の留学生が加わり、日本の伝統的な遊びやゲームを通して、初対面の緊張感をほぐしました。

○Presentation（「Jゼミ（人文科学課題研究Ⅰ）」の研究内容紹介）

自分たちの班の研究内容を英語で紹介し、留学生から多くの意見やアドバイスをいただきました。

○Interview ＆ Discussion（留学生とのインタビュー＆ディスカッション）

高校生２名～４名の小グループに分かれ、留学生の来日の動機や大学における研究内容、現地の文化や日本での生活について、インタビューをしました。その後に、将来の夢や世界情勢などについて、英語で意見交換を一生懸命に頑張りました。（その際、身振り手振り等のジェスチャーを有効に活用しました。）



○閉講式

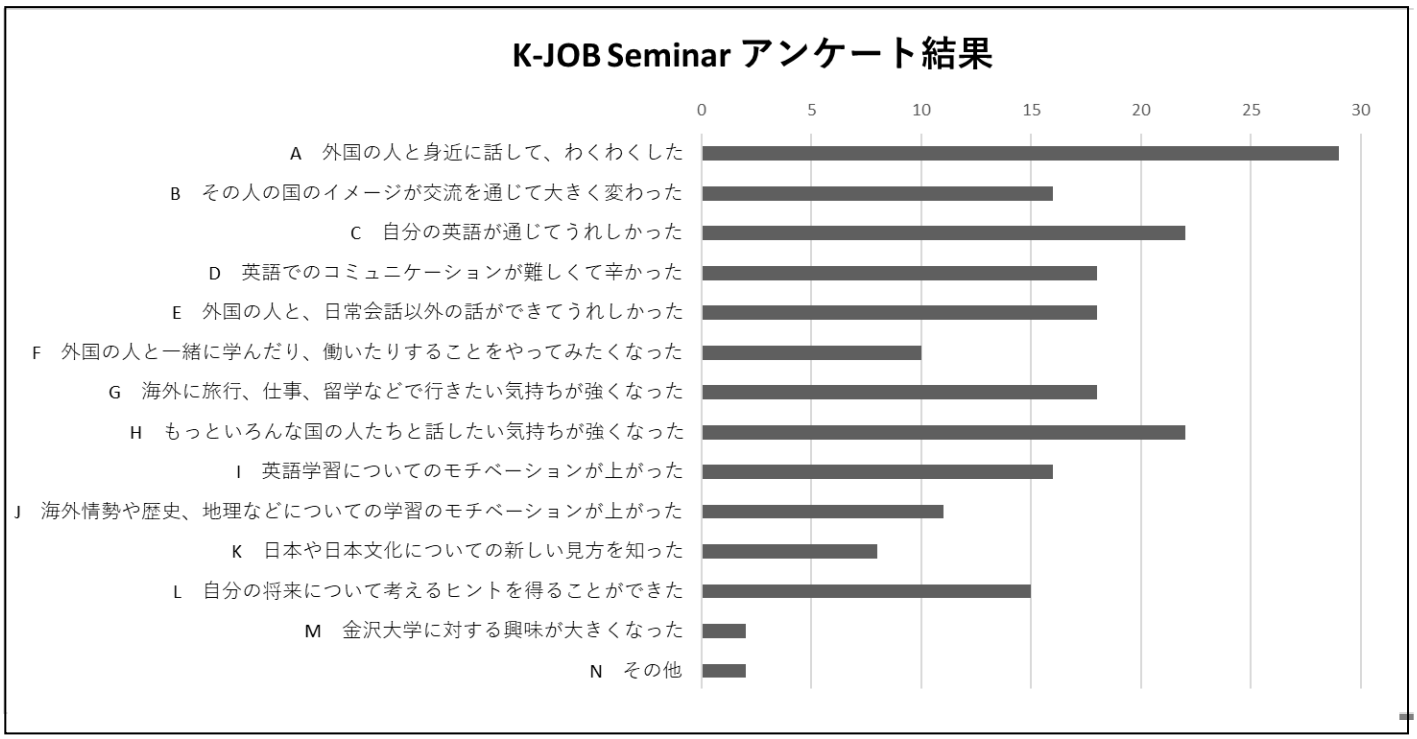
文化交流の１０名の班に戻り、各班の代表が、参加いただいたことへのお礼の言葉とともに、小松高校クリアファイルと学校パンフレットをプレゼントしました。

活動後の生徒の感想

・自分の英語が伝わった嬉しさや、その国に対する自分の印象が変わったことなど、本当に刺激を受けた１日でした。まだまだ世界について自分の知らないことがあるのを改めて自覚しました。
・最初はとても緊張しましたが、実際に話してみたり、日本の遊びを楽しんだりしたことで緊張がとけていきました。留学生の皆さんがとても気さくで、話が盛り上がりました。
・プレゼンをしている際、真剣な表情で耳を傾けてくれ、課題研究を一生懸命にやって本当に良かったと感じました。自分の将来についてのアドバイスをいただけたことも、とても良かったです。

活動後のアンケート結果

下記の項目について、当てはまると思ったものにすべて○をつけてもらいました。



コロナ禍により中止となった、海外研修の代替行事として急遽企画されたK-JOB Seminarでしたが、長時間に渡って英語で留学生と対話し続けることで、生徒たちは大いに学ぶことができたようです。また、準備の時間がほとんど取れなかった中、留学生との時間を充実させるために知恵と工夫を凝らす様子から、人文科学コースの生徒たちの創造性や、優しい人柄を見ることができました。

現在は難しいですが、いつか、国境を越えて羽ばたく皆さんの活躍を楽しみにしています！

★「人文科学コース」今後の予定★

◎１月１９日（火）Jゼミ最終発表会
◎２月中旬　　NSH課題研究合同発表会（オンライン開催）
◎３月１９日（金）小松高校文化部発表会　Jゼミ代表の班１つが発表します